

## 平成28年度事業報告書

平成28年8月1日から平成29年7月31日まで

### ■ 第11期（平成28年度）の総括

第11期の活動テーマは、「対話の場を問い直す」であった。場とつながりの研究センターが設立以来取り組んできた「対話によるまちづくり」を支援する取り組みを、設立10年を経て原点に立ち返り、再度整理しようとして取り組んできた。異なる立場や経験のある人が集い、お互いの違いを大切にしながら未来志向で話を深めていく会議体・交流会のひとつの形態である「フューチャーセッション」について研究を深めてきた。先駆的事例から知見を集めて、多様なテーマでの展開に向けた礎ができつつある。なるべく定期的実践していくことで、「ここに来れば何かのアイデアや元気がもらえる」と思える場を作り上げていきたい。

事業面では、ひょうごボランティア基金・（公財）ベネッセこども基金の助成を受け、「まなびあい」や「対話」の場づくりに関する事業を中心に実施した。また、「まなびあい」についても各地から問い合わせがあり、様々な団体と連携を組むことができた。「子どもの貧困」という潜在的課題に対し、地域のつながりを活かした子どもの居場所づくりを目指す取り組みは市内ではまだまだ珍しい。「地域にさまざまなタイプの居場所ができ、それらがゆるやかにネットワークをつくることで地域の子どもの貧困に向けた予防的取り組みが行える」と考え、各地での横展開に取り組みたい。

経理面では、わずかながらではあるが黒字で終わることができた。書類作成や経理事務支援などの依頼を今期も継続していただき、団体の維持・管理にかかる経費を十分にまかなうことができた。一方で、担い手が事務局長のみで、管理業務の進捗の見える化が課題として残っている。経理の信用性を高めるための工夫を考えたい。

活動計算書上では表現していないが、日常活動やイベントへの「ボランティアの参画」が当団体には多く、日々の取り組みへの源泉となっている。ほんまち事務所には、スタッフに加え引き続きボランティアの新納晃納さんが毎週木曜日事務所を開放し、来訪者を受け入れてくださっている。また、ボランティアサークル「SSV 関西学院」をはじめとした学生や市内在住の若者が活動に参加してくれていることもあり、さまざまな創意工夫が活動にもたらすことができたと感じている。しかし、学生ボランティアの卒業に伴う新しいメンバー募集も同時に必要であり、（学生に限らず）当団体とゆるやかに関わることが楽しいと思ってもらえるような人が増える取り組みを、次期はいつそう注力したい。

多くの人の意見やアイデアを取り入れながら、誰もが訪れやすい団体づくりを目指したい。

## ■ 特定非営利活動に係る事業の実施について

### 1. 市民活動や運営に関する相談事業 (収益 H28 : 588 千円、H27 : 751 千円)

市民活動に関する幅広い相談支援を実施。ひょうごボランティア基金の助成を受け、相談料は半額の 1 回 1,000 円（初回無料）で実施。多くが市内の市民活動団体であるが、行政・社協に加え地域団体からの相談が増えている。地元大学生からの相談（大学生による子ども支援事業など）も依然として多い。特に、「居場所づくり」と「子どもの貧困」に関する相談が急増している。

#### 1.1. 市民活動団体・法人設立支援

市民活動団体や NPO 法人設立を希望する団体を支援。主に、申請書類作成や運営組織体制づくり、事業報告書作成支援、労務・登記に関するアドバイスをした。

#### 1.2. 団体運営・マネジメント支援

事業企画の立案や継続、運営体制のあり方についてのアドバイス、NPO 関連の制度や事例、助成金等の情報提供、広報の相談支援、人材のコーディネートを実施した。

(主な実績)

- NPO 法人アングラス・フリット： 企画づくり支援
- NPO 法人保育ネットワーク・ミルク： 運営全般支援、認定 NPO 取得支援

#### 1.3. 事務作業支援

NPO の事務作業を一部代行して実施。特に会計に関する相談が増えている。

(主な実績) -

- NPO 法人言語障害者の社会参加を支援する会しゃべろーよ： 会計事務支援
- NPO 法人三田市手をつなぐ育成会： 会計事務および請求事務支援

## 2. 市民活動に資するネットワーク形成事業 (収益 H28 : 371 千円、H27 : 278 千円)

### 2.1. まちなか交流企画

#### (1) まちカフェ

偶数月 1 回、全 6 回開催。大島がコーディネータを担当し、特にテーマを決めずにざっくばらんな会話を楽しむ時間を提供した。ここでの参加メンバーが、まつりイベント等での出店やさまざまな活動でのボランティアとして活躍して下さった。



#### (2) まちの読書会

奇数月 1 回、全 6 回開催。書籍に関連するテーマにおいて、自身の身の回りで起きていることとリンクさせながら、まちのこれからについて考えた。事務局だけでなく参加者から書籍・著者の提案をいただくことができたこともあり、より多様なジャンルが実施でき、結果として定期的な参加者に加え、新しい参加者を呼び込むことができた。



(実施状況)

回	実施日	書籍名 (出版年)	著者
㉕	2016年9月24日	東京防災 (2015)	東京都
㉖	2016年11月12日	脳が壊れた (2016)	鈴木大介
㉗	2017年1月7日	聖の青春 (2002)	大崎善生
㉘	2017年3月18日	賞味期限のウソ～食品ロスはなぜ生まれるのか (2016)	井手留美
㉙	2017年5月27日	ルポ 保健室～子どもの貧困・虐待・性のリアル (2016)	秋山千佳
㉚	2017年7月15日	応仁の乱～戦国時代を生んだ大乱 (2016)	呉座勇一

### 2.2. 夏まつり (三田まつり) / 冬まつり (あきんどまつり) での店頭販売

夏と冬の商店街でのイベントに、商店街の一員として参加。事務所前にて、夏はわた菓子やゲームコーナーを、冬はわた菓子、焼き芋を販売した。リピーター率も高く、我々の店舗として定着しつつある。当日の運営は日常的な関係者に加え、まなびあに来ている子どもたち、この日のために集まるメンバーもいて、賑やかに開催している。

### 2.3. シェアオフィス・コワーキング

ほんまち事務所を他団体とシェアし、その家賃収益を計上。三田市文化協会と三田市手をつなぐ育成会が入居している。

## 2.4. 三田まちの寺子屋「まなびあ」の運営【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

地域の子どもの地域で支える仕組みづくりを目指し、主に生活困窮家庭・ひとり親家庭の子どもや不登校児者の学校外教育の提供を目的に、地域住民と協働で平成 25 年 8 月に立ち上げ。共働き家庭をはじめとしたすべての子どもの、放課後の居場所としてもテーマを拡大し、運営している。また、2017 年 4 月からは三田地区民生委員・婦人会と協働し、子ども食堂「まかないキッチン」にも取り組み始めた（右写真）



（スタッフ）

子どもたちの学習支援を担う「まなびサポーター」には、中嶋和哉さんをはじめ三田在住の 20-40 代メンバーに加え、一般市民、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーとともに運営している。月 1 回程度の定例会を開催し、情報共有や対応を議論している。

（広報）

運営委員の大東真弓さん（三田小学校区学校支援ボランティアコーディネーターほか）の協力のもと、三田小・三輪小・武庫小・松が丘小・富士小にチラシを配布して PR した。また、関心を持つスクールカウンセラーや、三田市社会福祉協議会「経済的困窮家庭対象の心配事相談」事業（三田市権利擁護・成年後見支援センター）と連携し、必要な家庭への情報提供や子どもの紹介が行われるよう関係づくりができた。また、日頃の様子は Facebook でも発信している。（右の QR コードからページ参照）



（費用）

初動費用には、独立行政法人福祉医療機構の平成 25 年度助成金を活用。平成 26 年度はボランティアによる運営を続けてきたが、平成 27 年 4 月より公益財団法人ベネッセこども基金の助成を受け事業を展開。平成 28 年度および平成 29 年度も引き続き助成をいただいた（最終年）。他には、gooddo 社によるクリック募金（2,500 円/週≒120,000 円/年）に加え、地域からの資金（寄付金、協賛金等）を集めて運営していくことを考えている。

	開設時～	平成 26 年 4 月～	平成 26 年 7 月～現在
実施日	水曜 15:30～18:30 土曜 13:30～16:30	水曜 15:30～18:30 金曜 //	
場 所	三田ほんまち交流館「縁」		三田小学校区県民交流広場 「じばやんクラブ」
利用者数	小学生～高卒生 平均 4 人	小学生～高卒生 平均 3 人	小学生～高卒生 平均 7 人

### 3. 市民活動に資する人材育成事業 (収益 H28 : 292 千円、H27 : 258 千円)

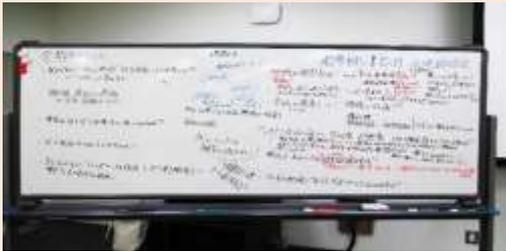
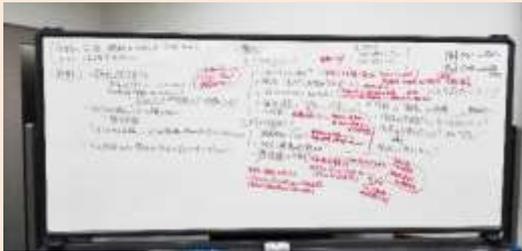
#### 3.1. 自主セミナー開催

##### (1) 「地域の子どもを地域で支えるために、今、知っておきたいこと」

【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

「子どもの貧困」や子どもや家庭の地域での孤立などの地域課題に関心ある住民に対し、子どもの貧困に関連するキーワードにまつわるゲストをお招きした講演会および参加者同士でディスカッションを行うことで、三田での子どもを取り巻く状況を見つめなおし、三田でもできる身の丈にあった取り組みを考え、具体的な行動へのはじめの一步の動機を促進することを目的に開催した。

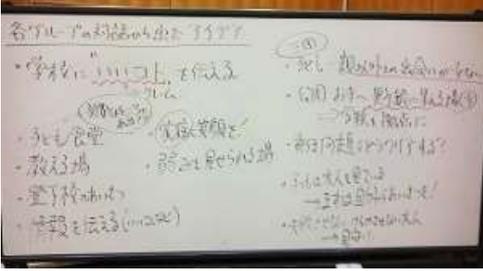


テーマ	シングルマザーの困りごと ～学齢期の子をもつ家族に、地域は何ができるのか？	学校と家庭、福祉をつなぐ人 ～「これからの学校」を、地域がどう支えるか？
実施日	2017年3月5日(日)13:30-16:30	2017年3月20日(月祝)13:30-16:30
会場	三田市まちづくり協働センター 講座室	三田市まちづくり協働センター 講座室
ゲスト	安木 麻貴氏 しんぐるまざあず・ふぉーらむ・関西・神戸ウエスト	金澤 ますみ氏 桃山学院大学社会学部 准教授
参加数	5人	10人
会場の様子	<p>国の統計資料を参考に、シングルマザー当事者がこれまで苦勞してきたこと、制度として不十分なこと、精神的に超えにくい壁、これまでの取り組みについてお話いただいた。「おてらおやつクラブ」の交流をきっかけに、圏域を越えたネットワークづくりの大切さを再認識した。</p> <p>*以下のページから詳細が確認できます <a href="http://batotsunagari.net/report_170305/">http://batotsunagari.net/report_170305/</a></p> <p>当日の質疑のメモ</p> 	<p>スクールソーシャルワーカーについての基礎的理解と、学習支援や生活支援などを含めた「夕刻を支える場づくり」の重要性について講義をいただいた。質疑は終了後も続き、1時間延長して終了するなど、非常に熱気のある開催となった。</p> <p>*以下のページから詳細が確認できます <a href="http://batotsunagari.net/report170320/">http://batotsunagari.net/report170320/</a></p> <p>当日の質疑のメモ</p> 

(2) フューチャーセッション「地域の子どもたちを地域で支えるために、考えること」

【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

子どもを取り巻く社会課題を自分ごととして意識してもらえるよう「対話」を通じた意見交換とアイデアが生まれるような場づくりを行った。

テーマ	映画を見て、みんなで語ろう！ 子どもの「居場所」をどうやってつくる？	子どもが「いきいき育つ」ために、 わたしたちの地域ができることを考えよう
実施日	2017年2月12日(日) 13:30～16:30	2017年3月26日(日) 13:30～16:30
会場	三田市まちづくり協働センター 多目的ホール	三田市まちづくり協働センター 多目的ホール
参加人数	26人	8人
会場の様子	<p>映画「さとにきたらええやん」を見て、参加者の対話の場づくりを行った。</p>   	<p>「最近の子を見て、①いいこと、②気になること」をオープニングクエスチョンとし、自己紹介を行った。出てきた話題をもとに、(A) 父親が集まりやすい場づくり、(B)子どもとIT、の2班に分かれて、実現を目指したアイデアを参加者同士で話し合った。</p>  

### (3) 「まなびサタデースクール」開催 【公益財団法人ベネッセこども基金助成事業】

三田まちの寺子屋「まなびあ」から派生した事業で、子どもたちのさまざまな「まなび」を促すための企画を実施した。当団体の人材ネットワークや経験値を次活用して、ボランティアサークル「SSV 関西学院」のメンバーが主に企画立案を担った。（詳細は次頁参照）

子どもたちのプログラミング的思考力（仮説検証型思考法）の向上を目的として「はじめてのプログラミング」を定期的で開催。子どもの成長を願うメンター（ボランティア）からのさまざまなアドバイスもあり、より興味深い作品を子どもたちは作っている。参加者及び保護者からの反響もあり、継続的に開催している。

※参加者の作品アトリエ：<https://scratch.mit.edu/studios/1741552/>（要 ID 登録）

実施日	参加人数
2016年9月17日	13人
2016年11月19日	7人
2017年1月21日	6人
2017年3月25日	6人
2017年5月20日	9人
2017年7月8日	11人



また、地域住民主体でのプログラミング学習を行いたいとの要望を受け、ゆりのき台にて出前講座を開催（2017年1月29日）。当企画のプログラムコーディネーターの寺川諒さんと具志恒陽さん（ともに関西学院大学総合政策学部3回生）が講師となって、子どもたちのチャレンジを支援した。



まなびサタデースクール 詳細版① (2016年8月～2017年7月) ※所属・学年は実施当時

企画名	おかしなサッカー ～ハチャメチャ🍷に挑戦だ！～	魔女からの挑戦状 ～キミたちで勝利をつかみとれ！～	SANDA QUEST ～立ち上がり、勇者たち 冒険が君を呼んでいる～	謎解き博士からの招待状
目的	主に運動に対して自己肯定感の低い子どもに対し、子どもたち自身が仲間と相談し、試行錯誤をしながらゲームにチャレンジし、運動におけるさまざまな役割や自分が必要とされている実感を得ることを通して、子どもに体を使ってあそぶことの楽しさや興味を喚起することを目的に実施。	主に戸外で体を動かして遊ぶ機会が減少した子どもたちを対象に、個々の運動能力に関係しない種目や仲間と協力して挑戦する種目を提供することで、体を動かす楽しさを感じてもらおうとともに、仲間と協力することで得られる楽しさや達成感を得ることを目的に実施。	主に外遊びよりも家庭内ゲームに興味を持つ子を対象に、自然散策を兼ねたさまざまなゲームを行うことで、外で遊ぶことの魅力を感じるとともにゲームの楽しさは外で遊ぶことから工夫ひとつで得られることを実感してもらうことを目的に実施。	5教科をはじめとした教科学習に対する意欲が持てない子どもに対し、自分自身またはチームで協力して多様な観点から答えを導くクイズゲームを行うことで、5感を使って考え相談することで得られるコミュニケーション能力や論理思考力、発想力を育てるとともに、未知の事柄に対して興味をもつことの楽しさを感じる気持ちを促進することを目的に実施。
実施内容	フットサルを使った仲間づくりゲーム	変わり種運動会	ロールプレイングゲーム的手法を用いた自然散策	なぞなぞクイズを用いた脱出ゲーム
実施日	2016年8月8日(月)10:00-13:00	2016年10月30日(日)9:30-12:30	2016年12月18日(日)11:30-13:45	2017年2月4日(土)13:30-16:30
実施場所	三田市立三田小学校 体育館	三田市立三田小学校 体育館	兵庫県立有馬富士公園	三田市総合福祉保健センター 会議室
参加費	800円	700円	1,000円	1,000円
参加者数	10人	11人	7人	11人
当日の様子	ボールが3つのサッカーは頭もフル回転！  作戦会議でしっかり意思疎通をしよう！ 	魔女たちの妨害に負けずがんばろう！  チーム一丸となって障害物リレーにチャレンジ！ 	チームで戦い方を考えよう！  最後は全員でボスを倒すぞ！ 	物理法則、わかるかな？  今までのヒントを活かして大謎を解こう 
企画担当者	湧田正行(関西学院大学2回生) 山下倫桜(関西学院大学1回生) 具志恒陽(関西学院大学3回生)	嶋田勝太(関西学院大学1回生) 鈴木仁平(関西学院大学1回生) 道旗 優(関西学院大学1回生)	山下倫桜(関西学院大学1回生) 鈴木志歩(関西学院大学1回生)	高橋志門(関西学院大学4回生) 延安亮哉(関西学院大学4回生) 井上友彰(関西学院大学4回生)

まなびサタデースクール 詳細版② ※所属・学年は実施当時

企画名	みんなでつくろう！ ぼくたちの秘密基地 ～第1回 ドーム型の屋根を作ろう	みんなでつくろう！ ぼくたちの秘密基地 ～第2回 座るためのカタチを作ろう	ガンガン WORD バトル	たまねぎをつかって ハンカチを染めよう!!
目的	ダンボールや新聞紙をはじめとした身近にある素材を活用し、参加者同士が協力しながらひとつのものを設計・製作することを通して、自分たちで考えイメージを具現化できる力を育てることとともに、防災、アート、エコロジーなどまちの身近な話題に関心をもつことを目的に実施。 ※ゲスト： 下村宜生氏 三田プレーパークプロジェクト 代表	同左	言語化する力や創造力、ロジカルシンキング、説得力のある議論、共感力などのコミュニケーションスキルを獲得するために、さまざまなゲームを交えたディベート学習を通して自分の考えていることを相手に適切に伝えるために必要な力を身につけることを目的として実施。	たまねぎの皮を使った草木染め体験を通して、化学製品とは異なる自然の色合いの多様さと再現性の難しさを知り、リユース・リメイクなどの環境に配慮した伝統的な取り組みなど日本の文化を伝えることを目的に実施。 ※ゲスト： 下村宜生氏 三田プレーパークプロジェクト 代表
実施内容	新聞紙を使った工作	ダンボールを使った工作	ディベート	草木染体験
実施日	2016年10月16日(日)11:00～15:00 *9月19日実施予定が雨天のため延期	2016年11月13日(日)13:30～16:30	2017年6月18日(日)10:30～17:00	2017年7月17日(月祝)13:30～16:30
実施場所	関西学院大学神戸三田キャンパス	三田市総合文化センター 創作室	三田市まちづくり協働センター 多目的ホール	三田市まちづくり協働センター 調理実習室
参加費	1,000円	1,000円	500円	1,000円
参加者数	10人	6人	7人	6人
当日の様子	ミニチュア模型を作って全体をイメージ！  みんなで新聞紙を丸めてドームを作るぞ 	スタッフと力を合わせて作業しよう！  ふだん見ない大きなダンボールを使おう！ 	論拠を考える組み立て方を学ぼう！  意見をまとめて、相手にぶつけよう！ 	実験の前に予想！ どんな色になると思う？  たまねぎの皮からこんな色が出るんだ！ 
企画担当者	浅井悠介(神戸大学3年生) 岩佐優奈(関西学院大学2年生)	浅井悠介(神戸大学3年生) 長谷川智子(地域住民)	廖 思超(関西学院大学3年生) 山下倫桜(関西学院大学2年生) 鈴川仁平(関西学院大学2年生)	奥田有海(ボラメン・ボラガール) 藤村(地域住民)

### 3.2. 委託セミナー開催

今年度は実施なし

### 3.3. 講師派遣

依頼を受けて下記の講座に講師を派遣した。

実施日	内容	主催者	場所
2016年10月28日	子どもの居場所づくり～「まなびあ」の活動を通して～	三田市人権を考える会 三田地区	さんだ市民センター
2017年1月14日 ～2017年2月5日	平成28年度 翔塾（後期） 「やってみたい」をカタチにしよう！ （全4回講座）	一般財団法人大阪府男女 共同参画推進財団 （ドーン財団）	東大阪市立男女共同参画センター・ イコーラム
2017年3月1日	ボランティアを楽しもう！あなたの 「やってみたい」ってな～に？	三田市社会福祉協議会 （ボランティア研修）	三田市多世代交流館「ふらっと」
2017年5月13日	共感を呼ぶ！ プレゼンテーション セミナー～「伝える」→「伝わる」を 目指して～	三田市人権・男女 共同参画プラザ	まちづくり 協働センター
2017年5月26日	まちづくりを担う人、支える人、つな ぐ人 ～NPO の多様な広がりと「つな がり」がもたらす可能性	甲南大学文学部 「NPO 論」（帯谷） ゲストスピーカー	甲南大学
2016年7月29日	NPO 法人で働く ～NPO 法人& 認定 NPO 法人は誰がために？	NPO 法人保育ネット ワーク・ミルク	フルーツフラー パーク

また、三田市立八景中学校より、学力重点支援生徒を対象とした「がんばりタイム」への数学指導員派遣の要請を受け、2016年7月から年間40～50回程度、指導員を派遣している。

（大島、中嶋和哉さん、下村宜生さん、具志恒陽さん、岩佐優奈さん）

## 4. 市民活動に関する情報発信事業（収益 H28：0千円、H27：0千円）

### 4.1. メールニュース発行

主に毎月1～2回メールニュースを配信。主催事業の案内に加え、助成金情報、地域イベント情報を無料で掲載している。現在179人に直接送付（前期末比4人増）、同内容をホームページやfacebookサイトに掲載している。地域イベント情報は、当団体のボランティアである新納晃重さんが、毎回文字入力してくださっている。

## 5. まちづくりに資する地域情報化事業（収益 H28：0千円 H27：0千円）

今期は実施なし

## 6. まちづくりに資するコーディネーション事業（収益 H28：16千円、H27:10千円）

### 6.1. 地域の未来を対話する場「フューチャーセッション」促進事業

【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

2016年～17年度にかけての重点事業として実施。複雑多様化した社会課題に対し、「自分ごと」としてとらえる多様な人たちがフラットに参加し、集まった知恵やノウハウからアクションを生み出す対話の場「フューチャーセッション」について、先駆的な取り組みを行っている「静岡大学フューチャーセンター」の事例から、対話がまちづくりにどのような効果をもたらすのか、を考えるシンポジウムを開催。学生がまちの課題と関わり、解決案をともに模索していくプロセスについて学び、「ほんまちラボ」としての今後の取り組みについて大きな示唆を得た。これらのフューチャーセッションで得た知見をもとに、地域に「対話の場」の再構築に取り組んでいきたいと考えている。



実施日： 平成 29 年 2 月 25 日(土)13:30-16:30

場 所： 神戸市立生涯学習センター コミスタこうべ

講 師： 静大フューチャーセンター

NPO 法人静岡フューチャーセンター・サポートネット ESUNE

宇賀田栄次氏 (国立静岡大学 学生支援センター 准教授)

佐藤 直樹氏 (国立静岡大学 学生支援センター 特任助教)

奥洞 知依氏 (国立静岡大学 農学部 3 回生)

参加者数： 19 人 (行政職員、NPO 法人、地縁団体、中間支援団体等)



## 7. 市民活動及びまちづくりに関する調査研究事業（収益 H28：6千円、H27：15千円）

### 7.1. 研究受託

#### (1) 居場所研究会【ひょうごボランティア基金 中間支援事業助成】

地域の高齢者や子ども、障害をもつ人、ひきこもりなどのさまざまなテーマで人が気軽に集える「居場所」を作る活動や支援している人を対象に、現場での思いや工夫、苦労や課題、そして未来について参加者同士で安全・安心な対話ができる場としての「居場所研究会」を2013年度より開催。本年度は居場所の「現場」を見ることを通して、居場所の空気を感じ、よりよい「居場所」運営のためのコツとモチベーションと仲間を作ることを目的に実施した。



新しいチャレンジが生まれる 人と場を守(も)りたてるコツ	テーマ	廃校に集まる、地域の人財 過疎地域ならではの挑戦
平成28年10月27日(木)14:00-16:00	実施日	平成28年11月14日(月)14:00-16:00
みんなのひろば おおきなき 三木市緑が丘町中 2-1-1	会場	くもべまちづくり協議会 篠山市西本荘西ノ山1
みんなのひろば おおきなき 高垣清恵氏	ゲスト	くもべまちづくり協議会 合同会社里山工房くもべ 今井進氏
6人	参加者数	8人

①みんなのひろば おおきなき



②くもべまちづくり協議会



### 7.2. 市民調査支援

今期は実施なし

## ■ 管理および法人運営部門

### 1. 会員の状況 (収益 H28 : 51 千円、H27 : 75 千円)

正会員は、期初時点で 24 名であったが今期で 2 名の退会・1 名の入会があり、現在の正会員数は 23 名である。会員の多くはこれまでの当会のスタッフに加え、地域のつながりづくりに関心あるメンバーの参加が増えつつある。賛助会員は、2 名・団体であった。賛助会員の拡大を今期の重点課題として取り組みたい。

### 2. 寄附の状況 (収益 H28 : 725 千円、H27 : 782 千円)

今期も収益の約 15%を占めるなど法人運営の土台となりつつある。今後の活動に充ててほしいと活動謝金をそのまま寄付して下さった方も多くいらっしゃった。支援の広がりをお願いしていききたい。

### 3. 会議に関する事項

総会および理事会を下記の通り実施。理事会ではメーリングリストで情報共有・意見交換を適宜行っている。

	日 時	会 場	備 考
総 会	2016 年 10 月 15 日	三田ほんまち交流館「縁」	通常総会
理 事 会	2016 年 9 月 22 日	ほんまち事務所	
	2016 年 11 月 14 日	*理事長選任のためのみなし理事会	
	2017 年 2 月 2 日	ほんまち事務所	

### 4. 他団体との連携・協力

以下の組織・ネットワークに所属し、適宜情報交換や事業連携を行っている。

- 車瀬橋商店街 (以下は大島が個人で受けているもの)
- 三田本町通商店街 (準会員)
- 三田市商工会
- ひょうご子育てコミュニティ
- ひょうご市民活動協議会
- 阪神北中間支援ネットワーク
- 三田地区県民交流広場  
「じばやん倶楽部」運営委員
- 三田小学校コミュニティスクール運営協議会 運営委員
- 三田市社会福祉協議会 評議委員
- 大阪ボランティア協会 情報誌「Volo」編集委員
- コープともしびボランティア振興財団 運営委員
- 神戸市認定 NPO 取得支援アドバイザー
- 神戸市 NPO 活動支援アドバイザー

■ これまでの業績推移

	収益	経常収支差額	主な事業等
平成 18 年度	6,192,761	△960,814	市民活動推進プラザ運営
平成 19 年度	9,339,984	137,083	地域 SNS「さんでい」立ち上げ
平成 20 年度	17,329,561	△347,523	総務省「地方の元気再生事業」
平成 21 年度	17,053,023	66,850	
平成 22 年度	49,197,634	△2,257,061	総務省「地域 ICT 利活用広域連携事業」。他、3 つの緊急雇用事業
平成 23 年度	20,208,730	△961,253	市民活動推進プラザ、受託終了。ほんまち移転
平成 24 年度	5,412,920	△1,222,338	ひょうごコミュニティ財団設立支援
平成 25 年度	4,823,671	407,254	居場所研究会、まなびあ設立
平成 26 年度	3,470,315	630,174	中堅スタッフ育成、ベネッセ助成金、まなびサテライトスクール
平成 27 年度	4,228,054	717,566	気づきの事例検討会、フューチャーセッション
平成 28 年度	4,180,558	116,841	対話の場づくり、がんばりタイム

以上